軟包装関連

トップの展望

農産物包材で優位性発揮

袋、容器、ネット製品で高シェア

信和（大阪市西淀川区、☎06・6478・1821）は、1961年（昭和36年）の創業以来、農産物包材の専門企業として広く認知され高いシェアを誇っている。代表取締役社長の平原靖彦氏に現状と展望を聞いた。

◇　◇

お蔭さまで当社は今年、創業から65年目の節を刻むことができました。昨年春に死去した前社長・西山幸司の後を受け、今日まで無我夢中で走り続けてまいりましたが、お客様から直接、期待の声を聞かせていただく度に、当社の製造販売する包装資材がエッセンシャルワーカーとして、その使命と責任を強く感じています。先頃、中東情勢緊迫化、いわゆる〝ナフサショック〟の際もメーカーとして何より〝安定供給〟という期待と信頼にお応えできるよう懸命に一つひとつ対応させていただきました。

信和
代表取締役社長
平原 靖彦氏

今後もOPP防曇袋、真空成型容器、ネットの3つの柱となる製品を安定的に提供することを最大の強みに、今後も店頭訴求力の高い製品の開発に力を注いでまいります。

その意味においては、生産性向上と販売ネットワーク網の強化と充実が必要で川上から川下へという当社の戦略として最も注力すべき課題であると常に考え実行しています。先般、「包装タイムス」紙面で報道の通り、来年春完成、稼働へ国内8拠点目の「群馬工場」の建設と、10カ所目の「福岡営業所」を9月1日に開設しました。

今後一層、マーケットにおける競争力や差別化を感じていただけるように努めてまいる考えです。

特に、「群馬工場」は1期工事に10台の製袋機設置を計画しており、兵庫、静岡、熊本に設置する工場設備と合わせ全社で150台近くの稼働となり、生産者様と商品流通、BCP（事業継続計画）対策などで当社の持つ競争力を感じていただけるものと思います。

真空成型容器についても「ミネロン化成工業」がグループ内でシーティングから成型まで一貫体制で対応しており、青果物、生鮮野菜など農産物関連の包装資材を専門的に取り扱う企業の中でも必ず優位性を発揮するものと考えます。

当社のホームページに掲げる当社の仕事は「ものを『包む』しごとです。みなさんの『食べる』を『包む』ことをお手伝いいたします」のもと、今後も「環境と調和した商品づくり」、「生産技術とアイデア」、「幅広い製品展開」を心掛け、他にない強みを最大限生かし、お客様からいつまでも必要な会社だと言っていただけるように努力してまいります。